

2020年度入試

# 入学試験問題集

【東京成徳大学 子ども学部 子ども学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

## 目 次

AO入試 小論文	1
推薦入試1期（公募制度・指定校制度） 小論文	2
推薦入試2期（公募制度） 小論文	3
一般入試D日程 小論文	4
出題意図	5

一般入試A・B・C日程につきましては、  
「2020年度入試問題集  
一般入試A日程・B日程・C日程  
(全学部・学科共通)」をご確認ください。

# ● AO 入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

子どもの社会化（人間が社会で一人前になるために必要な知識や価値、技能、信念、態度、規範、慣習などを習得する過程）と家族に関する以下の文章を読み、設問に答えなさい。

設問 本文の要点を述べ、子どもの社会化に家族がどのように影響するかについて具体的な例をあげてあなたの考えを600字以内で論じてください。

子どもにとって家族がいかに重要であるかについては、人間発達の研究を行うすべての学問領域において強調されており、現在、私たちはそれを当たり前のこととして認識している。人間の子どもは無力な状態で生まれ、大人の助けや養育なしでは1日たりとて生きていくことはできないが、子どもが大人の全面的庇護を必要とするのは生命維持の面においてだけではない。子どもが社会的人間となるためには、言葉を覚え、生活様式や知識、技能を習得し、場面に応じた動機や気持ちを適切に表現する能力を身につける必要があるが、子どもはそれらすべてを大人から学ばなければならないのである。このような、人間がその社会で一人前になるために必要な知識や価値、技能、信念、態度、規範、慣習など（端的に言えば文化）を習得する過程を社会化という。

子どもは、最初に所属する家族のなかで親から基礎的な社会化の方向付けを受け（一次的社会化）、それを基礎として、やがて仲間集団や近隣集団、学校、職場集団など諸種の社会集団に準拠し（準拠集団）、そのなかで他者との相互作用を通して社会化されていく。準拠集団を移行したり、社会変容によって学べき価値や知識が刷新されれば、その都度、私たちは社会化されなければならないから、したがって、社会化は生涯を通してなされる過程であるといえるだろう。しかし人間発達の側面からみれば、生涯のなかで最も劇的な発達・変化をみせるのは子ども期であり、それゆえ、子ども期の社会化を主に担う家族の重要性が唱えられてきたのである。

ところで、人間は生涯のなかで2種類の家族を経験する。一つは子どもとして生まれ出た家族、すなわち定位家族であり、もう一つは一人前になって自分がつくる家族、すなわち生殖家族である。人間形成のうえで重要なのは前者の定位家族であるが、子どもの社会化という側面において、家族はどのような意味や特徴をもつのだろうか。

第一に、子どもにとって家族は自由に選んだり取り替えたりすることのできない、いわば運命的集団であるといえる。家族は子どもが最初に所属する集団であり、発達（＝人生の出「発」から死に到「達」するまで）の原点をなすといえるが、しかしその出発点を子どもが選ぶことはできない。親も同様に子どもを選ぶことはできないが、しかし全面的庇護を必要とする子どもの方が、どの家族に生まれ出るのは人格形成においてより重要な意味をもつといえる。

第二に、家族は、比較的少人数の親密な近親者を構成員とし、愛情や一体感を基本としつつ、さまざまな感情的結びつきを含めた感情包含的集団である。そこでの人間関係は全人格的であって、善悪種々の感情表出が起きるゆえに善／悪の温床となり得る集団でもある。ただし、集団である以上、そこには地位と役割が生じる。具体的には、親子・きょうだいといった地位がみられるが、子どもは親と入れ替われないし、最初に生まれれば必然的に長子になるのであって、それぞれの地位は、それに応じたパターン化された期待や行動といった社会的役割を付随する。

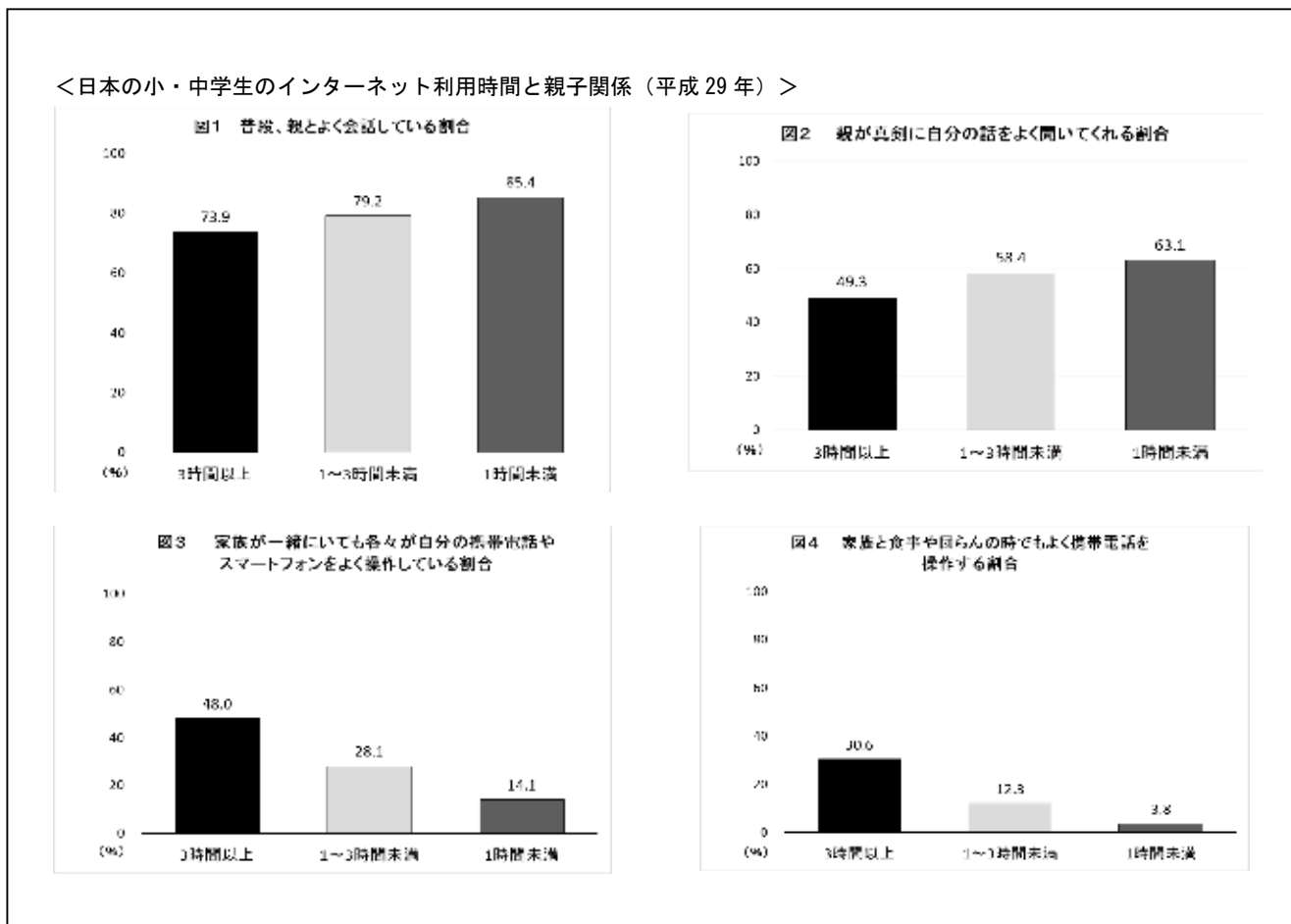
第三に、生まれてから数年間は、子どもにとって家族は唯一絶対の世界である。乳幼児期の子どもには未だ批判的能力はないから、親の言うことや統制力は絶対的であり、子どもの社会化の基礎と輪郭は親によって形成される。精神分析的な理論が主張するように、幼少期の経験によって個人のパーソナリティが決定されるかどうかは定かではないが、しかし少なくともその作用は長期にわたって持続するであろうと考えられている。

こうした運命的で全人格の特徴をもつ家族集団において、子どもは親との日常的なやり取りを通して社会化されるのだが、それゆえ、親が子どもに教えたことだけでなく教えたことまで子どもには伝わってゆく。しかしその結果、子どもは社会的に許容される行為と許容されない行為の範囲を徐々に知ることができるのであり、自らを統制していく様子を学ぶようになる。こうして、個人が社会的な価値、知識、技能、行動様式などを学習するから社会は維持され再生産されるのであり、また社会化されるがゆえに個人は適切に社会に参加することが可能になる。その意味で、社会化は個人にとっても社会にとっても不可欠な課題であるといえるだろう。

# ●推薦入試1期（公募制度・指定校制度）

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の4つの図は、日本における小・中学生のインターネット利用時間と親子関係に関する調査結果です。これらの結果から読み取ることができる特徴を述べてください。さらに、グラフを読み取った結果と関連させて、スマートフォン・携帯、インターネットの利用の在り方と親子・家族関係について自分の意見を述べてください（800字以内）。



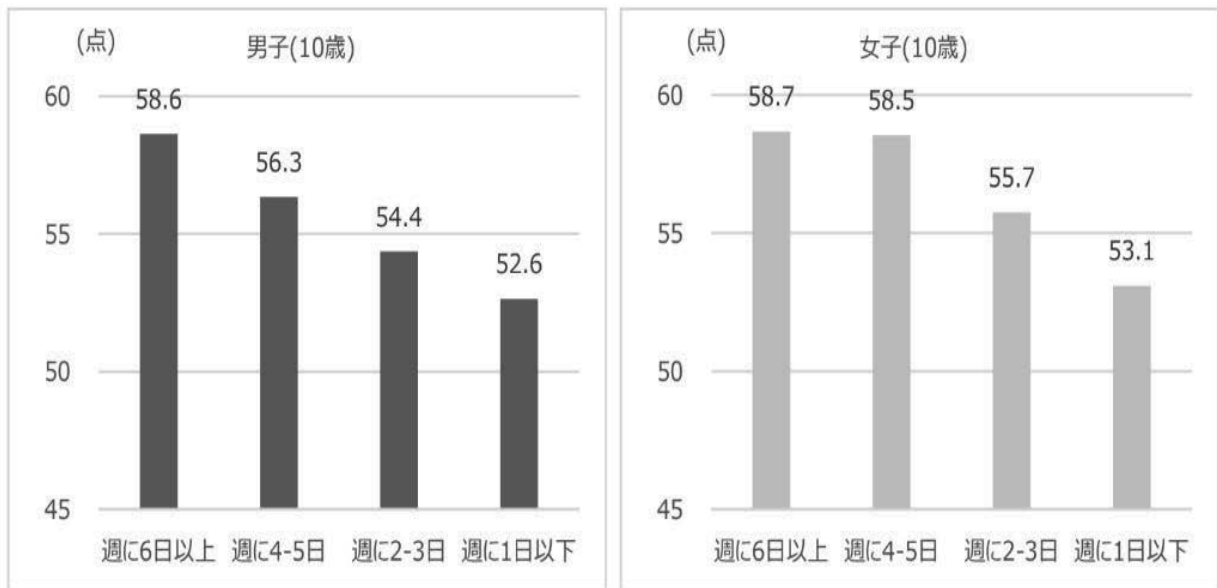
出典：国立青少年教育振興機構／「インターネット社会の親子関係に関する意識調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」（2018）

# ●推薦入試 2 期（公募制度）

## 【小論文】（試験時間：60 分）

下の図は入学前の外遊びの実施状況と十歳時点での新体力テストの合計点との関係を表したものです。このグラフから読みとれることを説明したうえで、日本の幼児の外遊びの現状についてあなたがどのように認識しているかを述べ、さらに上述してきたことを踏まえて幼児の外遊びに対するあなたの考えを論じてください。以上のことを 800 字以内でまとめて下さい。

図：入学前の外遊びの実施状況別新体力テスト合計点（10 歳）



※縦軸は新体力テストの合計点、横軸は入学前の外遊びの実施状況を表している。

※※新体力テストとは、国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得るために文部科学省が毎年実施しているもの。小学生は握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（往復持久走）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げの8項目がテストされる。

出典：スポーツ庁／平成30年10月7日報道発表資料「平成29年度体力・運動能力調査の結果について」

# ●一般入試 D 日程

## 【小論文】（試験時間：60 分）

### 【設問】

近年、食品ロスが大きな社会問題になっています。しかし一方で、保育所や幼稚園、学校での行き過ぎた完食指導が、子どもに対して大きな負担となっていることも指摘されています。

以上のことを踏まえ、あなたは、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭という、子どもの教育に携わる職業の人々が、どのように食育に取り組むのが望ましいと考えますか。

上記3つの職業のうちいずれかひとつを選び、選んだ職業を明記し（書式自由）、あなたの考えと具体的な方法を 800 字以内で論じてください。

# ●出題意図

## AO入試【出題意図】

---

子どもの社会化（※）と家族についての出題文を時間内に正しく読み取り、要点をあげられる力があるか。文章を理解したうえで、自分なりの考えを分かりやすく、かつ具体的に論じることができるかをみる。

※社会化とは、「人間がその社会で一人前になるために必要な知識や価値、技能、信念、態度、規範、慣習など（端的に言えば文化）を習得する過程」のことである。（出題文から引用）

今回の出題の背景にあたっては、少子高齢化、核家族化、共働き世帯の増加、離婚率・未婚率の増加、ステップファミリーや同性婚の存在など家族の形態や親の役割が多様化するなかで、家族と子どもの関係性を捉えなおす試みがなされていることがあげられる。子どもにとって、家族は初めて出会う社会集団の一つである。子どもは、家族をとおして、社会で生きるための文化（知識、価値、技能、信念、態度、規範、慣習など）を習得する。子どもが最も深い人間関係を結ぶのは家族であり、家族は子どもが社会のなかで生きるための価値観や行動規範等の示唆を与え、将来の方向性に大きな影響を及ぼすものと考えられる。一方で、子どものジェンダー観や職業観などは、家庭環境の影響を受けており、子どもの社会化に好ましくない影響をもたらすことがあると既存の研究において指摘されている。今回の出題では、受験生が出題文を正しく読み取り、家族が子どもに与える影響について、自分なりの意見を具体的に述べることができるかどうかが重視される。

また、高等学校の教科「家庭」の学習指導要領において示されている家族や家庭の意義を学んできた生徒に、子どもの社会化と家族についての課題を確認する問題とした。

## 推薦入試1期（公募制度・指定校制度）【出題意図】

---

内閣府による「青少年のインターネット利用環境実態調査」(2019)によると、現在、小・中・高校生のインターネットの利用率は、小学生 65.4%、中学生 85.2%、高校生 97.1%である。また、スマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット等の機器利用率は、小学生 86.3%、中学生 92.4%、高校生 98.6%と上記の結果を上回る利用率であった。平均利用時間は159.3分と2時間半を上回る。保護者の利用率は、インターネット利用率 98.6%、1日当たりのインターネット平均利用時間は平均136分と2時間を上回る。

子ども・保護者ともにインターネットや周辺機器の利用は、1日の中での時間を多く占めており、生活の中で身近な道具であることが確認される。

問題では、こうした身近な事象である日本の小・中学生のインターネット利用時間と親子関係に関する調査結果を示し、その結果の特徴を述べてもらうこととした。さらに、スマートフォン、携帯、インターネットの利用の在り方と親子関係に対する考えを述べてもらうこととした。問題は、受験生にとって身近な事象と身近な人との関係性について再考することは、取り組みやすいものであると考える。

評価では、知識・技能、ならびに思考力・判断力・表現力を評価する。具体的には、①課題文の読解する力を見るとともに、4つのグラフそれぞれの特徴の読み取り、4つのグラフの横断的な読み取りやその関連性についての的確に捉え、整理し、記述する能力を評価する。②さらに①を踏まえた上での、スマートフォン・携帯、インターネットの利用の在り方についての見解を論理的に表現できる能力を評価する。

## 推薦入試2期（公募制度）【出題意図】

---

2006年に改正された教育基本法において新たに追加された「幼児期の教育」の条文（第11条）「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ…」にも表れているように、近年、教育を含めた幼児期の環境がその後の学力や運動能力に与える影響や、大人になってからの生活への影響に関する研究が進展しており、全ての子どもが健やかに成長できるよう、幼児期から質の高い教育を含む望ましい環境を提供することの重要性が高まっている。一方で、子どもを取り巻く環境が大きく変化してきている中で、望ましい環境を提供することが困難な状況も見受けられる。

今回の試験では、「入学前の外遊びの実施状況別新体力テスト合計点」のグラフの読み取りをすること、日本の幼児の外遊びの現状についての自身の認識を述べること、それらを踏まえて幼児の外遊びに対する考えを論じてもらうこととした。グラフについては、高等学校で身に付けた基本的な学力をベースにすれば、「入学前の外遊びの頻度が高い子どもは10歳時点での体力が高い」という傾向が示されていることを容易に読み取れるはずである。また、子ども文化全般に興味・関心のある者や子育て支援に関わる力を身につけたいと考えている者にとって、日本の幼児の外遊びの現状について何かしらの認識を示すことや、幼児の外遊びに対する見解を述べることは難しいことではないと考えられる。グラフの読み取り、日本の幼児の外遊びの現状への認識、そしてそれらを踏まえての幼児の外遊びに対する考えを通して、知識・技能ならびに思考力・判断力・表現力を評価する。

## 一般入試D日程【出題意図】

---

持続可能な社会の実現に向け、幼少期から適切な生活習慣を身につけられるよう支援することは、この時期の子どもに関わる教育者の重要な使命である。中でも、生きる糧であり子どもにとって大きな楽しみでもある食事は、とても大切な場面である。

本設問は、食品ロスの防止（食べ残しを減らすこと）と、行き過ぎた完食指導の回避（無理に全て食べさせないこと）という、矛盾する二つの教育的ねらいに対し、それぞれの重要性を認識しつつ、保育者や教師として実際の食事場面で子どもとどのように関わるかを、具体的にイメージできるかどうかを問うものである。この設問により、社会全体を見渡す広い視野をもちつつ目の前の子どもを尊重しようとすることができるか、また、必ずしも正解がひとつではなく様々な葛藤を抱えた教育実践に、自分なりに向き合う共生とコミュニケーションの姿勢があるかどうかを評価するものである。